

にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ

岸和田 TV MODE で 活動内容を世界へ発信

No. 127

岸和田 TV MODE は大阪府と連携しながら「OSAKA 愛鑑(めいかん)HP 市町村ライブ配信」を放送媒体としてインターネットテレビを活用し、岸和田の魅力の世界へ伝える番組を生配信しているものです。生配信後は YouTube の市公式チャンネルにアップロードされています。

「岸和田 TV MODE ~ Vol.7」

<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/3/kishiwadamodevol7report.html>

生放送は1月26日(火)午後4時から20分、スタジオは岸和田市役所新館4階第1委員会室。番組は MC 岸和田市広報広聴課 吉野優真さん、出演 永野耕平市長、当協会より会長 井上 實さん、副会長 塩屋 裕さん、副会長 東田和代さんで、質問形式で画像を交えながら進められました。活動内容紹介の概要は次の通りです。(広報部会)

■岸和田市国際親善協会の

活動全般について

井上 實

岸和田市国際親善協会は市民活動団体として1989年に発足して今年で32年になります。発足当時、関西国際空港の開港を間近に控え、世界に開かれた国際文化都市を目指す岸和田市では、市民レベルの国際交流を進める団体の設立を望む声が高まり、それにこたえる形で設立しました。

今では国際親善・国際交流に限らずに広く岸和田市の国際化に役立つような事業の推進に努めています。それは岸和田市が求める国際化の基本理念「地球市民の集う都市・きしわだ」を目指すというものです。

本日はその中でも日本語サロンをはじめとする各種の「日本語支援」と「だんじりインフォメーションセンター」の開設との2点に的を絞って詳しくご紹介しましょう

■外国人のためのだんじりインフォメーションセンターについて 塩屋 裕

昨年はコロナ禍の影響で岸和田だんじり祭は自粛で開設されませんでした。今年は開設30年を迎えます。2019年度は世界から46か国、402名の外国人が当センターを訪問しました。バヌアツ、スワージーランド、レユニオンなど珍しい国からの訪問や祭の日程にあわせて来日する外国人が多数です。情報満載のだんじりマップは全10言語で用意し、そして延べ約30名のボランティアスタッフが「おもてなし」をしながら国際交流をしています。法被を着て記念写真を撮ったり、自撮り動画をYouTubeにアップして世界へ発信しているメディア基地となっています。毎年当センターを訪れる市長さんの感想は「いろいろな外国語が飛び交う中で、素晴らしい国際交流の場であることを感じました。私も今年外国語を少し勉強して、外国の人たちと是非交流してみたいと思います。」とのことでした。



(市広報広聴課撮影)

■日本語サロンについて

東田 和代

通常、日本語サロンは週5回、右掲のチラシの場所、時間で開催されています。日本語を学ぶ目的は様々(日本語検定試験合格、日常会話等)なので、その要望に応えるために、基本的には、マンツーマンでの学習形態をとっています。また、日本語指導だけでなく、日本文化に触れる機会を設けたり、サロン生の国について話を聞いたり、お互いに学習できる機会になっています。緊急事態宣言中は、サロンの開催を見送っています。

また、市内小、中学校に通っている外国ルーツの子供たちが、日本語がわからず、学校の授業では「わからない」ということもできず、座っています。加配の先生方に加えて、当協会から、日本語指導補助員を派遣し、少しでも快適な学校生活が送れるようにサポートしています。



無料配布中

「にゅとぴあ 岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。



Since 1989

ifa-きしわだ
岸和田市国際親善協会

ifa-kishiwada.rinku.org



多文化共生講座

2/6(土) 福祉総合センター

講師 「やさしい日本語」有志の会
代表 花岡正義さん

やさしい日本語 「外国の人にやさしく 伝えるために」

日本に住んでいる外国の人は地震や台風の時、わからない日本語でとても困っています。

地震の無い国もあり、まず「地震」をやさしい日本語で説明することが必要です。「余震」、「避難」、「炊き出し」などは、どんな言葉で説明できますか? 「火の元を確認してください」ってどう説明しますか? あなたはやさしい・わかりやすい日本語で手助けすることができますか?

「やさしい日本語」有志の会代表 花岡正義さんを講師にお迎えし、災害の時は特にやさしい日本語で伝えることの大切さを教えていただきました。自分の国の言葉が通じない日本で、普段の生活でさえ慣れない日本語を使う必要のある人たちが、災害の時に言葉がわからないことはどれほど不安でしょう。花岡先生は、私たちが何の疑問もなく使っている言葉が、彼らには全く意味が分からないことがあることをたくさんの例で説明してくれました。そして、講義の中で参加者を指名して、むづかしい言葉を、わかりやすい、やさしい日本語に言い換える実践をしてくれました。わかりきっている日本語ですが、いざ自分が指名されると言えないもので、「火の元を確認」は「火を見てください」とか「火が消えているか見てください」の不十分な答えになります。正解は「火を消してください」ですと聞いて目から鱗が落ちました。昨今の、国会答弁などの日本語の曖昧さに耳が慣れて、麻痺しているのです。



「やさしい日本語」12のルールがあり、「余震」は「後から来る地震」、「避難」は「逃げる」、「炊き出し」は「温かい食べ物を作って配る」などむづかしい言葉を受け簡単な言葉を使うことや、「胃がきりぎりする」などの擬態語は避ける、「通れないことはない」などの二重否定は使わないことなどがあります。

講義の最後に、「はさみ」の法則を教えてくださいました。『㊤：はっきり ㊦：さいごまで ㊧：みじかく』災害時を想定した外国人へのやさしい日本語の講義ですが、日常の会話でも応用しなければなりませんし、外国人に話す以前に、普段使っている日本人同士の日本語をもう一度見直す必要を実感しました。(事業部会)

やさしい 日本語



第5回

《自分の国のことばで相談できるところ》

新型 コロナウイルス (COVID-19) のために、仕事や生活で困っている人、自分の国のことばで相談できる場所があります。

「出入国在留管理庁 FRESAヘルプデスク」

新型 コロナウイルス (COVID-19) のために、仕事がなくなった人、生活に困っている人は電話で相談できます。電話代は いりません。

月曜日から 金曜日の 午前9時から 午後5時まで 0120-76-2029

「出入国在留管理庁 コールセンター」

特定技能の 在留資格で 働きたい人は、電話で相談できます。電話代が いりません。
火曜日から 土曜日までの 午前11時(じ)から 午後7時まで 03-6633-2539



FRESAヘルプデスク

(事業部会)



地球どんぶり

みかん狩り



「みかん狩り」は みかんの 木から 自分で
みかんを とって そこで 食べることです。

みかん狩りの ほかに「ぶどう狩り」「梨狩り」
「いちご狩り」も あります。 自分で とってす

ぐに 食べるので 新しくて おいしいです。
岸和田市国際親善協会では 今年3つの 日本語

サロンが みかん狩りに 行きました。
春木サロンは 11月8日 (A) と 22日 (B) の

2回 みかん狩りを しました。ベトナム インドネシア フィリピンの 人と 日本語ボランティア
全部で 39人が 行きました。8日も 22日も どちらも いい 天気でした。

東岸和田サロンは 11月 13日 に 行きました。中国の 人と 日本語ボランティアの 全部で
13人が いっしょに 行きました。

みどろサロンは 11月 8日 に 行きました。ベトナムと 中国の 人と 日本語ボランティアの
全部で 9人でした。

みんな 自分で おいしい みかんを さがして たくさん 食べました。おいしい みかんが
あると みんなにも 教えて あげました。それから 家にも たくさん 持って 帰りました。

みどろサロンは みかん狩りが 終わってから みんなで いっしょに 昼ご飯を 食べました。
みんな お弁当を 持ってきました。中国の 人は 餃子を ベトナムの 人は くだものとお菓子

を持ってきました。それを みんなで わけあって 食べました。とても おいしかったです。
それから とんぼ池公園へ 行きました。とんぼ池公園は とても 広くて いろいろな 木や

花が あります。木の 葉が 赤や 黄色に 変わって いました。これを 「紅葉」と 言います。
「紅葉」を 見に行く ことを 「紅葉狩り」と 言います。でも 紅葉は 見るだけで 食べま

せん。
ほかにも いろいろ ちがった バラの花が たくさん 咲いていました。天気が よくて 紅葉

や バラも 見ることが できました。みんな たくさん 写真を とりました。おなかも いっぱ
いで とても 楽しい 一日でした。みなさんも 機会が あれば ぜひ 「○○狩り」を してく

ださい。



東岸和田サロン



みどろサロン



春木サロン A



春木サロン B

(事業部会)

日本語サロン便り 《日本語サロンの紹介》



当市及びその近郊に住む外国人を対象に、協会では地域の日本語教室として『日本語サロン』を運営し、日本語学習を通じて外国人の日本の生活や文化の理解を深めるため、彼らとの交流を図っています。毎週市内の5施設【箕土路青少年会館】【職員会館】【春木市民センター】【福祉総合センター】【東岸和田市民センター】で5つの日本語サロンを開催、日本語ボランティアが「文字、語彙、読解、文法、会話」の日本語学習の指導とサロン生の生活支援等を行っています。

日本語ボランティアとして活動するために2年間の養成講座の履修が必要です。1年目の初級講座は外国人に対する日本語学習支援の基礎技術を学び、2年目の上級講座では実践的な学習を行います。2020年は、コロナ禍のため中止を余儀なくされましたが、2021年は15期日本語ボランティア養成講座の初級講座を、5

月～12月、21回の講座、定員20名(40名、通例)、及び開設説明会4月22日(木)19:00-20:30岸和田市職員会館の予定で行います。

2年間の養成講座の修了者は、当協会会員及び日本語ボランティアとして各日本語サロンで実際に活動することが出来ます。年齢、資格、外国語能力は問いません。日本語サロンでは、検温、手指の消毒、マスクの着用と3密を避けるコロナ感染予防対策の徹底に努めています。

春木市民センター日本語サロンの場合、ベトナム人、インドネシア人などの多くの技能研修生が、マンツーマンによる日本語ボランティアの指導で日本語能力試験に備えて勉強しています。現在まで、アフガニスタン、アメリカ、イタリア、イラク、イラン、インドネシア、中国、韓国、コンゴ、スーダン、スリランカ、タイ、台湾、香港、バングラデシュ、ネパール、フィリピン、ブラジル、ベトナム、ペルーなどの国々から来日した多くの外国人が日本語サロンで学んでいます。(日本語サロン部会)

《ネパール・トレッキング紀行と国際交流》

国際交流



ネパールでの山中トレッキングでヒマラヤの峰々とルート上に点在する村々に生きる人々とその文化・風俗・営みを思い、コロナ禍の今再度振り返って見ました。

■ネパール共和国は北海道の約2倍の広さで人口は2870万人、シェルパ族、グルン族など多民族国家、言語は主にネパール語で、宗教はヒンドゥー教、仏教、イスラム教。

一人当たりのGDPは年1,034ドル、非同盟中立国。電力は90%が水力で賄われ、山中のホテルでは各室一個の豆電球が標準、多くの客が集まるレストハウスでは、たびたび停電が、数少ない大都市の信号も警察官の手信号に頼りがちになります。情報網は整備されていて、携帯電話は日常的に使われ、充電は手軽にでき、Wi-Fiも備わっている。

■村々をめぐる道はアップダウンがきつく、石の階段は

道の歴史を刻み、今はトレッキング道でもあるが、もとは生活物資運搬道路、他国との交易の道。道幅は2メートルそこそこで人、馬、牛が交錯し、一方は切り立った山、一方は深い谷でスリルは満点。

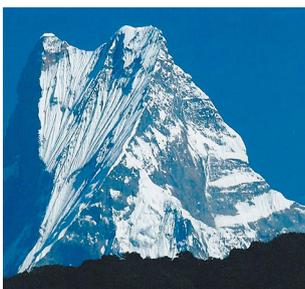
■ダサインはヒンドゥー教最大の祭り。山中の各村・集落入り口には、着飾った子どもたちが国民歌謡レッサム・フィリリの強烈なリズムで、歌い踊って旅人を迎えます。

■旅の楽しみの一つは村々での食料や嗜好品の調達、シェルパ族のガイド兼通訳が交渉。

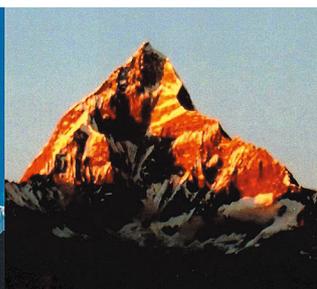
ロキシー(各家庭で醸すひえ焼酎)、蜂蜜(マッドハニーとも)断崖絶壁に長い竹の梯子を掛けて命がけで採取する貴重品、人の手首ほどもある太くて甘いバナナなど。

■眼前のヒマラヤ連山の朝昼夕に刻々と変化する輝きを望み、山麓に展開する人々の生活文化に触れることに旅の意義を見出しました。アジアの亜熱帯樹林と見事な棚田、細々と営まれきた自然と一体となった暮らしは、地球のどこにしようとも直面する難局を乗り切るには、自分たちにできることを極めようと示唆していました。

(井上 實)



マチャブチャレ峰



棚田の広がる村をトレッキング

日本語指導補助員 ことばの学習をしながら…



昨年の秋から、某小学校の米国帰りの M さんの日本語学習のお手伝いをするようになりました。

1年生の彼女は日常会話程度は理解できても、教科書や質問の微妙な言い回しは分かりにくいようでした。始めは図書館で絵本を読みながら進めました。ところが、ある日はイライラした様子で歩き回り、「何がしたいの?」と尋ねると「Nothing!」と答えて部屋の隅で座り込む始末。どうすればいいのか迷って、次回から孫のおもちゃ等を借りて持ってきました。カルタを読んだり、ゲームをしたりしました。中でも彼女はシールが気に入って、シール集めをしながら進めました。

今では苦手だった漢字も自分からどんどん練習しています。絵を描くことが好きなので、ノートに色々な絵を描いて楽しいお話をたくさん書いています。素敵な絵本ができそうです。少しでも彼女の日本での生活の手助けになっていれば嬉しいです。これからも彼女と二人で楽しくやっていきたいと思います。

コロナ禍、子供たちは色々な不自由を強いられているように思います。朝からずっとマスクをつけて生活し、友達とのおしゃべりもマスク越し。給食も黙って食べるだけ。寒い日も窓を少し開けて、廊下は寒風が通り過ぎる。会話を通して友達を作り、協力し合うそんな大事なことがこの次にされていくような気がします。子供たちが伸び伸びと生活できる日が一日も早く来て欲しいです。(宇野)

《教育サポーターとは?》 その1

教育サポーターという呼称は大阪府教育委員会で認定を受けた者のみに適用されます。

■帰国・渡日児童生徒の特徴：3つの壁（言葉・心・制度）を持ちながら学校で学習しなければならない。

■サポートの内容（大阪府の場合）

- ①小学校、中学校でのサポート（各市町村教育委員会）
- ②高校でのサポート（大阪府教育委員会→大阪府日本語教育支援センター（ピアにほんご））

◎定期的なサポート（主に児童生徒が対象）

- ①授業での学習通訳
- ②母語での教科指導のサポート
- ③母語や、その国の文化を教える
- ④母語と対比した日本語指導（日本語のみによる指導方法よりも習得効果が高い）
- ⑤進学に向けた学習サポート
- ⑥母語によるクラブ活動の指導
- ⑦学校生活の相談のサポート
- ⑧学校からのお知らせ文書や保護者からの手紙の翻訳
- ⑨学校から保護者への連絡の通訳・翻訳

◎不定期的なサポート（主に保護者が対象）

- ①保護者懇談での通訳
- ②家庭訪問（高校では行わない）
- ③行事の説明会での通訳
- ④進路ガイダンスでの通訳

続編次号へ掲載予定

*典拠：大阪府教育委員会教育サポーター育成研修資料
(教育サポーター 塩屋 裕)



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャー、ファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

《「無料」でつながる世界》



2021年も続くコロナ禍。直接会うことが叶わず繋がりを必要とする人々の間で、オンラインを介しての繋がりが当たり前になっているのは周知の通りです。オンライン化の傾向はゲームの世界でも顕著に見られ、好きなゲームで友達や世界中の人と繋がれるため、娯楽と繋がりをセットで満喫できて一石二鳥。私自身の長男も例にもれず、このオンラインゲームを楽しんでいます。

中でも特に、対戦ゲーム「フォートナイト（以下、FN）」はSwitchというゲーム機が2000万台販売された頃に1000万ダウンロードされた実績がある、世界的支持を集めるもの。米ノースカロライナ州に本社をおくE.G.社が2017年にリリースしたこのゲームの最大の特徴は、「無料」で始められるということ。無料という低い垣根でユーザーを誘い、取り込んだユーザーを魅力あるコンテンツでコアなファンへと変化させ、徐々に課金コンテンツへと導きます。オンラインを活用したこのFNは、コロナ禍に乗り、ますますソフトの需要が伸びている状況。さらにE.G.社は、ユーザーのみならず、制作者側への制作ツール「無料」提供も行っています。「Unreal Engine」という3Dゲーム制作ツールで、多数の制作者集団がこのソフトでゲーム制作、そのゲームの売上げが米100万ドル達成したグループからは、売上げの5%をロイヤリティとしてE.G.社に支払う取り決めがあります。高精度なツールでハイレベルなゲームを制作したい制作者サイドの思惑は、FNで人とつながってゲームを楽しみたいというユーザーの欲求と、形は違えど、「無料」という低い垣根のおかげで、そのニーズを満たすことが容易に可能となります。こうした「無料」でつながるオンラインの世界。友達とオンラインでゲームを楽しむ子供の背中を見ながら、この世界が孕む危険性も認知しつつ、親として現代人として、今後もその動向を注視していく必要性を感じています。

(虻江詩奈子)

12/19 Kislev Bacalla さん
(土) (フィリピン)

大阪在住、13歳の時に日本に来て、今は息子さんとイケメンのブラジル人のダンナさんとユダヤ人の先祖を持つという少しエキゾチックな背景のKislev Bacallaさんは、今年3月、フィリピンのEL NIDOと言うリゾート地を訪れて、忘れられない体験をすることになってしまいました。コロナ禍によるLOCKDOWNです。

ロックダウンという言葉は知っていても、自制自粛しか経験のしたことが無い私たちは、まずはビデオで流される、家族で来た美しい南の島のリゾート地の風景を眺め、やがて島を出ることは勿論、隔離され、外出もホテルのサービスもアルコールも禁止され、刻々と変わる情報を知るために、ホテルのオーナーの説明を聞きにホールに集まる、外国人滞在客たちの姿を見ながら、まあ本当に、大変だったのだということは納得できました。しかし



ひとくぎりついた質問タイムに、英語の先生のパートン氏が、いったいどのくらいの間シャットダウンしていたのかと質問し、4か月と答えると、EOCのホールは一瞬シーンとなりました。フィリピンが行ったロックダウンの厳しい現実を把握するにはまだだいぶ時間がかかりました。

パラワン島の北端にあるEL NIDOは“最後の秘境”と言われ、Bacallaさんの表現では“月がともかく大きい”ということですが、重なり溜まるストレス、やがてお金が底をつき、服もボロになっていく状況の中で、見知らぬ人同士が助け合い、あらためて私たちが生きる意味について考えました。
(金児 尚)

1/16 Free Talking 編
(土)

1月のEOCは予定されていたゲストが直前に無理となり、急遽Burtonリーダー、サブにはAliceご両人が快く協力して下さり会が進められました。COVID19について思うところ、今年の抱負New year's resolution、この2つに焦点を当てて皆さん思うがままにサロン風に意見を出しあう形です。普段はゲストの話の何とか聞き取ろうと頭を使う私には今日は話す方にシフトチェンジ、良い刺激となりました。Virusからの防御生活にあつての様々な工夫や、在宅生活だからこそその目標、例えばギターの習得や英語力の充実、エクササイズ、8kmを毎日歩く、マスクのオシャレ等々。「外国人のためのだんじりインフォメーションセンター」でのボランティアから外国人との交流に目覚め語学習得を始めたご夫婦、遠くに住む家族ともなかなか会えない



日々でもおせち料理を初めて手作り真空パックで送るだけでなくズーム操作も楽々、コロナ渦の中でかえってコミュニケーション深めている方もいたり。えっ、素晴らしいQuality lifeではないですか！日本人はどうしても自分自身のスキルアップに力を注ぎがちですが、そこは心を広く、皆で協力しながら世界中から恐れを無くしていきたく、アリスの弁。ネットを通じて実際会えなくても、悩みの中にいる人やお年寄りを励ましたいとの意見もありました。マドカホールで初級・中級英語を受け持つBurtonは生徒が数人この会に参加してくれ喜んでます。ともかくしゃべってみよう、交流しよう、コロナに負けずに！という意気を感じられた会でした。
(田村志津子)

ZOOM 会議

インターネットが世の中に普及し始めた頃、「図書館に行かなくても、論文が書けた」と田舎の一軒家で自慢げに話す人の机にはブラウン管のモニターがありました。「本は図書館に行って調べるもので、家にいてそんなことができるはずがない」と考えていた当時の私も、今や買い物もネットで、銀行振り込みもネットでパソコンの画面で大部分の用事をこなす時代です。それに追い打ちをかけるコロナ禍による外出自粛で、ますますネット依存の日々です。出勤も自粛でテレワークとなり、会議も自宅からZOOM等のネット会議が主流です。

岸和田市国際親善協会でも、会議をZOOMで行っています。会場までの移動の時間が無くなり、会議終了とともに自宅できつるなどの利点もあります。一方メンバーが一堂に会する会議は、同じ空間で話し合う

事の有意義さはもちろん、会議の休憩時のメンバー同士のちょっとした会話が、時に大きなヒントを与えてくれることも大切です。国際会議で英語のできない日本の代表が、通訳のつかない休憩の合間の各国の代表のちょっとしたおしゃべりについてゆけず、大切な情報を逃し、不利になったと聞いたことがあります。ZOOM会議はメンバーの匂いが伝わらない、おすましの会議で終わってしまう危険があることを今一度メンバーが心して、一歩踏み込んだ発言が必要です。
(内田満弥)





国際交流の中で不可欠なのは外国語です。しかし、日本語は他の外国語と比べて、文字も文法も全く違う言語です。これが私たち日本人にとって外国語を学ぶ上で大きなハンディキャップとなっています。また古来から海に囲まれ外国文化に接する機会が少なかったことから、無意識のうちに外国語にコンプレックスを持つようになり、苦手意識を持つのは当然です。

このような背景のなかで、皆さんはどのようにして外国語に接し学習しているのか、苦労話や感じていることを自由に投稿していただきましょう。

Let's learn foreign language.

《松江—ギリシャ—小泉八雲》

4年前、ギリシャ・アテネ空港でフライトを待っていた時のことです。一人のギリシャ婦人が私に話かけてくれました。「日本人ですね？ 私は最近日本に行きました。」私は「どちらへ、京都？ 東京？」と尋ねたところ、「松江です。」と云う意外な答えが返ってきました。一瞬ビックリしましたが、幸いなことに「松江—ギリシャ—小泉八雲※」と云うストーリーが浮かんできて、「八雲をご存知ですか？」と聞きました。彼女は満面の笑みで、「私は八雲の大ファンで、友達と 松江の八雲記念館に行きました。」との答え。その後、八雲の作品の話色々してくれました。私は以前 NHK の「100 分で名著」で八雲の作品を見ていたので、何とか対応が出来、最後に「八雲の活躍を称賛します。日本人が忘れかけていた『日本の美』を再認識させてくれました、またそれを世界中に発信してくれました。」と話をしました。彼女も満足してくれ、素晴らしい会話をありがとう、とのこと。

外国で見知らぬ人とこの様な文学論？をしたのは初めてで、強く印象に残っています。もし、英語が喋れなかったら、八雲に気が付かなかっただら、折角話しかけてくれたギリシャ婦人をがっかりさせたことでしょう。まずは小さいながら、個人ベースでの国際交流ができたのかなと喜んでいます。(中野泰孝)

※ギリシャ生まれのイギリス人。松江で日本人と結婚して、日本に関する印象記・随筆を発表。

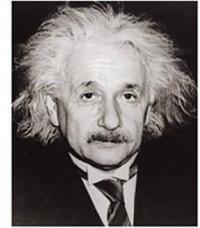
《I had no choice but to study English》

私が生まれて初めて英語を発したのは、前回の大阪万博でした。迷子バッチを付けた子ども達が会場の外国人に向かって「ハロー」と手を振るといふ謎のトレンドです。なぜそれがあんなに楽しかったのか今思えば不思議ですが、パピリオンそっちのけでやっていました。その時感じた英語に対する favorable な印象と、将来外国に行ってみたいという気持ちをはっきりと憶えています。

ところが高校の英文法と長文読解でつまづいてしまい、しばらく英語を封印していたのですが、20 代半ばでうっかり外資系企業に転職してしまい、さあ大変！ボスはアメリカ人、書類は英語。まさに Acquire or die! という環境に放りこまれてしまったのです。青ざめながらも決意しました。とにかく言われていることを理解すべし！言うべきことは必ず言うべし！少なくとも分かってないのに「Uh ha〜」などと理解したふりするのだけは止めよう！と。そこで通勤では CD を、家ではラジオ講座を聞き、英会話学校に通い、、、とにかく必死で勉強しました。英語がネックなこと以外はとても良い会社だったので、こんなことで辞めたくなかった。そうしているうちに、本当に少しずつ英語と私との距離が縮まり、海外出張にもようやく慣れてきた頃に family reason で離職せざるを得ませんでした。そして現在 ifa-きしわだ で皆さんと英語を学んでいます。必要に迫られずに、そして仲間と一緒に勉強するってこんなに楽しいんだ！と思いつつながら。(梶谷美加)

地球家族

《Hybrid ハイブリッド》



マリリンモンローとアインシュタインの会話

マ)「ねえ、私たちが結婚したら、世界一の頭脳と世界一の美貌の持ち主の子供が生まれると思わない」

ア)「でも、君の頭脳と僕の容姿を持った子供が生まれるたら悲劇だよ」

国際結婚が増えてきて、「ハーフ」と呼ばれる人が増えています。かく言う私の孫も日本人とオーストラリア人の「ハーフ」です。

しかし、最近は「半分」だけ日本人とか、半分ずつで一人前でないとか、否定的であるとのイメージから、「ダブル」と呼ぶようになっていっているそうです。100%と 100%で 200%との考え方は。両方の良いところ、優れたところを持ち合わせているということです。

タイトルのハイブリッドは自家用車で有名になった言葉です。これもガソリンエンジン車と電気自動車の優れた所を持ち合わせていますが、ハイブリッドの語源はラテン語の「hybrida ヒュブリダ」(豚とイノシシから生まれた子孫)とのことで、豚とイノシシの肉の良いところ取りをした「イノブタ」です。

ハイブリッドは、雑種の意味もあり、異種のを組み合わせ一つの目的をなすものことですが、前述の会話のごとく、良いところ取りばかりにならないこともあり得ます。

国際結婚で生まれた「ダブル」には、言葉や文化などいろいろな要素を両方 100%持ち合わせている場合が多く、特にバイリンガルで容姿端麗なハーフ(ダブル) タレントを見ると、男前でもなく、語学で苦労している私には「天は二物を与えず」との言葉がむなしく響きます。(内田満弥)

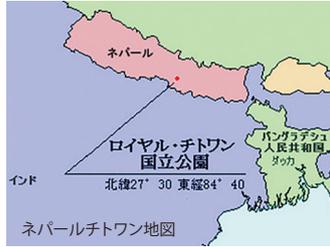
岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。

第33回は
カンデル デイパクさん (ネパール)



KISHIWADA
第33回



JR 阪和線東岸和田駅前にあるインド料理屋で働く料理長、ネパール出身のカンデル・デイパクさんです。

国立公園のあるチトワン地方出身、テレビなどを通じて日本が好きになったのがきっかけで13年半前に来阪、岸

和田には2010年から住んでおられるそうです。

兄である店長と一緒に始めたインド料理屋は今年で10年目。お店では料理長を務め、他2人の料理人と一緒に厨房を任されています。取材した日、店長さんは交替でお休みの日でしたが、カンデルさんが対応してくれました。カンデルさんの奥さんは、店の横にある市民センター内での日本語サロンに参加されているようで(現在はコロナ禍で中断)、カンデルさんご自身も日本語サロンで日本語を勉強したことがあるそうです。元々、インドやネパールの料理店厨房で働いていて、その経験を生かすべく、今の日本でも料理人としてその腕を振っています。日本に来た当初、やはり知らない土地ということでの戸惑いはあったようですが、日本語にも少しずつ慣れながら、現在は岸和田市内でもおいしい



世界遺産 チトワン国立公園

川でサイがお休み中

インド料理屋と評判のお店の料理長を立派に務めておられます。

厨房にいた2人の料理人さんも呼び、お写真を3人並んで撮影させていただきましたが、その背景にはヒンドゥー教の神様、ガネーシャとシバのタペストリー、そして一方の壁には象の刺繍の大きなタペストリーが飾られ、店内のテレビではずっとインドのミュージックビデオが流されており、店内は異国情緒でいっぱい。今はコロナ禍のため、透明の亚克力板やビニールシートで感染予防に努めておられるようで、この状況下、客足は少し遠のいたものの、なんともスパイシーな香りが店外にも漂い出ていて、その匂いにふわっと誘われてしまった人は数多くいるはず。

これから何かやってみたいことはありますか?という問いに、カンデルさんは「今まで作り続けてきた料理を、日本人に教えてあげたい」と答えてくれました。取材の間、TAKEOUT用のチーズナンを料理人さんたちが焼いてくれましたが、これは我が家の子どものお気に入り。遠い国の味が日本の我が家のお馴染みの味となりつつあり、その味はコロナ禍の状況下でも、国を越えて、一つの幸せを届けてくれるのです。(虻江詩奈子)



ネパール・チトワン地方で重要な交通手段 町を歩く像

Information

■「第15期日本語ボランティア養成講座(初級)」講座生募集

外国人に日本語学習の支援をします。

【と き】 2021年5月20日～11月25日の木曜日

19:00～20:30 (21講座)

【と ころ】 市職員会館 2階 大会議室

【対 象】 2年間の講座修了後日本語サロンでボランティアとして活動される方
年齢・資格・外国語能力は問いません。
受講料無料、テキスト代実費、協会へ入会(年会費2千円)

【説明会】 4月22日(木) 19:00～

市職員会館 2階 大会議室

※出席できない方は、申込時申し出ください

■2021年度総会

【と き】 5月8日(土) 14:00～

【と ころ】 浪切ホール 4階 交流ホール
*詳しくはチラシをご覧ください

■English Open Café

各国からのゲストをお招きし、英語でプレゼンをしていただき交流します

【と き】 9月以外の第3土曜日 13:30～15:30

【と ころ】 マドカホール 3階 視聴覚室

*事務局にお申込みください。(先着20名まで受付します)

にゅとびあ岸和田 No.127

編集担当

虻江詩奈子・内田満弥・
大塚 洋・塩屋 裕・
西村紀子・三森すみ代

お問い合わせや感想などは事務局まで

TEL&FAX (072)457-9694

https://ifa-kishiwada.rinku.org/ メール ☒ kokusai@sensyu.ne.jp

